

同志社大学

2014年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2015年 3月 17日提出

所 属	職 名	氏 名
日本語・日本文化 教育センター	准教授	松本 秀輔
研 究 題 目	1. 日本語表現文型（機能語類）の意味用法に関する研究 2. 日本語教材開発に関する研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>1. 今年度は、1) 助詞「ニ」「ト」「デ」などを含む文型表現・機能語に関する用例蒐集と分析、2) 形式および意義の類似する文型表現・機能語の分類・整理、を前年度に引き続き行った。その中で、「にして(も)・として(も)」「にあって・とあって」など、助詞「ニ」と「ト」の間で対応関係の見られる文型表現・機能語の用例について蒐集作業を進めた結果、「ニ」「ト」それぞれの本質的な性質とその差異を際立たせて見せる用例群が発見できた。その用例群について分析・整理を行い、その結果の一部を2015年3月発行の『同志社大学日本語・日本文化研究』第13号において、「現代語における『ニシテ』の副詞語尾的用法をめぐって」として発表予定である。</p> <p>2. 2012年4月に米澤昌子・入江さやか両氏と共同で刊行した中級日本語教材『豊富な例文で学ぶ新中級日本語』（ふくろう出版）を、引き続き2014年度も春・秋学期ともに日文センターのIVレベルの総合授業においてメインテキストとして用い、授業を通じて教科書としての改善点などを検討した。その上で、本教材の全面改訂作業を行い、『豊富な例文で学ぶ新中級日本語(改訂版)』として、2015年3月に発行予定である。さらに、本教材の分析・反省を踏まえつつ、本教材の続編となる中上級日本語教材の開発に取り組み、2015年度完成に向けて開発を進めている。また、韓国国立慶尚大学校の教授陣を中心としたメンバーと共同で日本語教科書『高等学校日本語Ⅰ』を作成・刊行し、韓国の高等学校で2014年度から使用されている。</p>	